

2025年3月期 第3四半期 決算補足説明資料

2025年1月31日

 黒崎播磨株式会社

(証券コード：5352)

1. 2025年3月期第3四半期決算の概要

2. 経常利益増減要因分析

3. セグメント別業績（連結）

4. 耐火物セグメントの概況

5. ファーネスセグメントの概況

6. セラミックスセグメントの概況

2025年3月期第3四半期決算の概要

単位：億円

	FY2023_3Q	FY2024_3Q	前年同期比	
売上高	1,343.4	1,332.8	▲10.6	▲0.8%
営業利益	119.4	103.9	▲15.4	▲12.9%
経常利益	130.4	109.5	▲20.9	▲16.1%
純利益 ^(*1)	95.3	92.4	▲2.9	▲3.0%
R O S ^(*2)	9.7%	8.2%	▲1.4pt	
R O E ^(*3)	16.4%	13.8%	▲2.6pt	
R O I C ^(*4)	10.1%	7.0%	▲3.1pt	

事業環境

- ・国内粗鋼生産量 (FY2024_3Q) 6,255万トン (前年同期比▲4.3%)
- ・世界粗鋼生産量 (CY2024_1月~12月) 18億8,260万トン (前年同期比▲0.8%)
- ・インド粗鋼生産量 (CY2024_1月~12月) 1億4,960万トン (前年同期比+6.3%)

(*1)：親会社株主に帰属する純利益

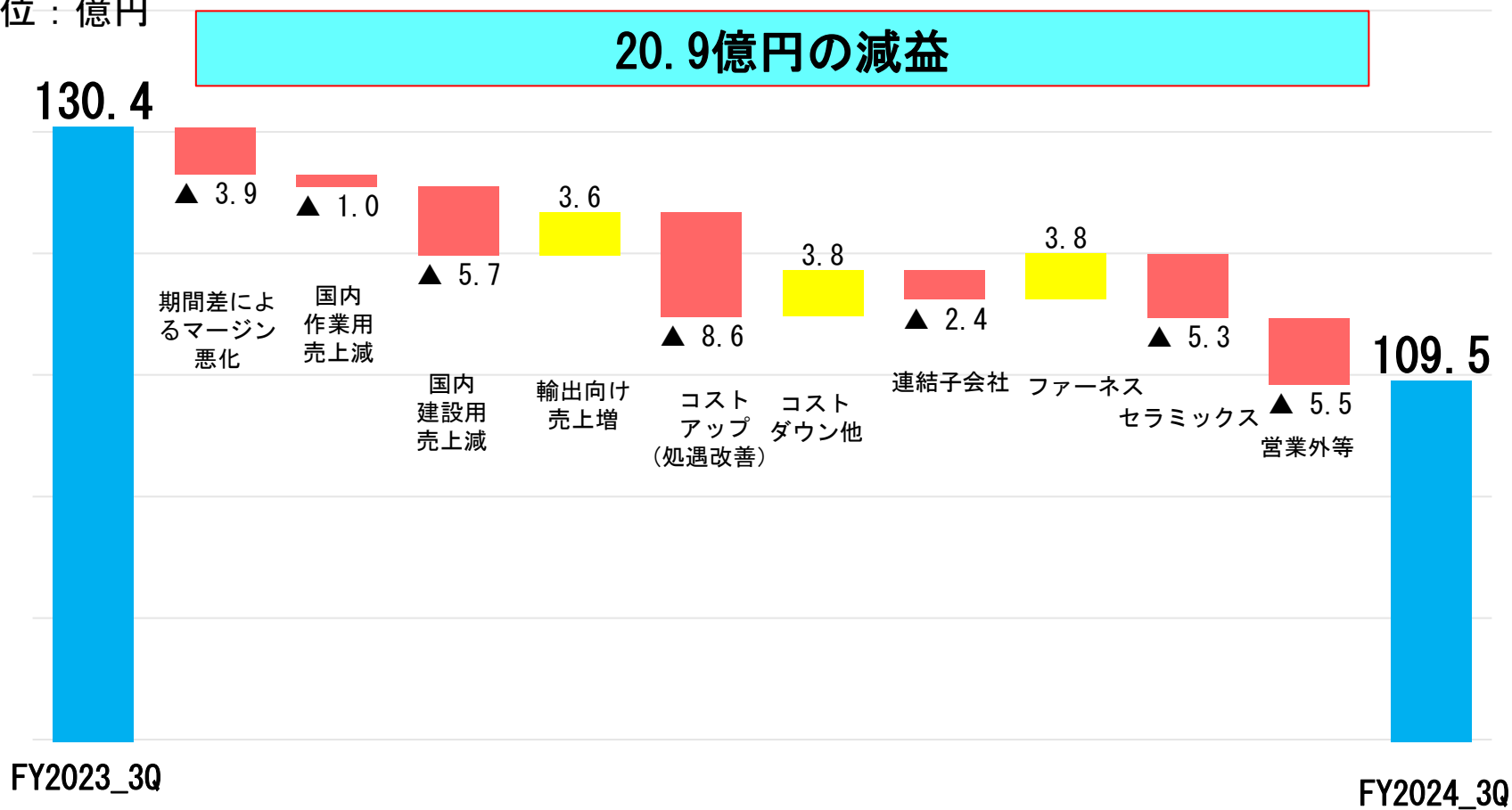
(*2)：売上高経常利益率

(*3)：自己資本利益率

(*4)：投下資本利益率

インドを除く国内外の粗鋼生産量減少影響に加え、円安進行に伴う輸入原材料価格の上昇に起因する一時的なコスト負担等により減益。

単位：億円



セグメント別業績(連結)

単位：億円

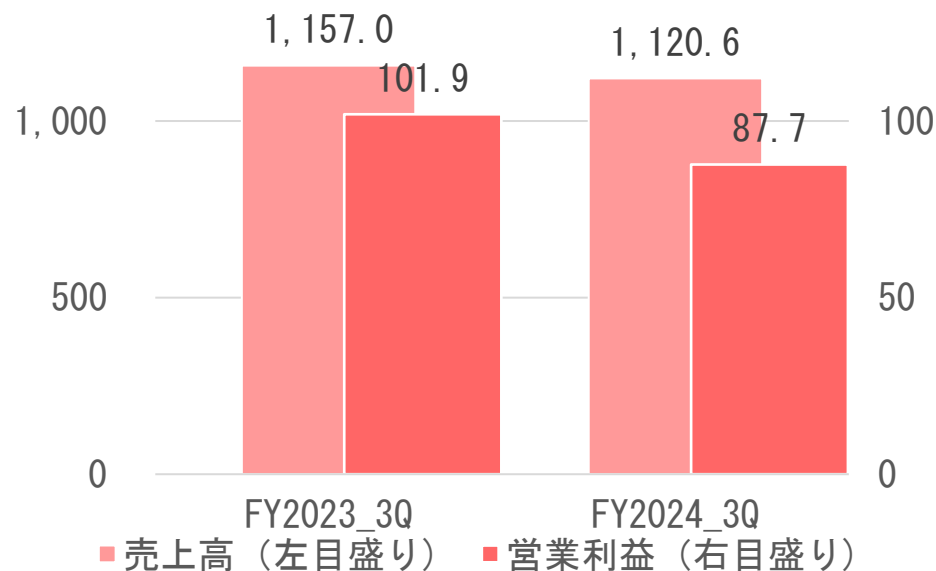
		FY2023_3Q	FY2024_3Q	前年同期比	
耐火物	売上高	1,157.0	1,120.6	▲ 36.3	▲ 3.1%
	セグメント利益	101.9	87.7	▲ 14.2	▲ 13.9%
ファーンレス	売上高	111.0	142.8	+ 31.7	+ 28.6%
	セグメント利益	4.8	8.6	+ 3.7	+ 78.4%
セラミックス	売上高	62.7	55.6	▲ 7.1	▲ 11.4%
	セグメント利益	7.9	2.6	▲ 5.2	▲ 66.3%
不動産他	売上高	12.5	13.7	+ 1.2	+ 9.6%
	セグメント利益	4.7	4.9	+ 0.1	+ 3.6%
合計	売上高	1,343.4	1,332.8	▲ 10.6	▲ 0.8%
	セグメント利益	119.4	103.9	▲ 15.4	▲ 12.9%

各セグメントの売上高は外部顧客への売上高であり、セグメント間の内部売上高又は振替高は含まれていません。また、セグメント利益は営業利益ベースです。

業績推移

単位：億円

	FY2023_3Q	FY2024_3Q	前年同期比	
売上高	1,157.0	1,120.6	▲36.3	▲3.1%
営業利益	101.9	87.7	▲14.2	▲13.9%



業績レビュー

- 堅調なインド鉄鋼市場等での事業拡大を進めたものの、その他国内外の粗鋼生産量が減少した影響やスポット案件の剥落に加え、円安による輸入原材料価格の上昇を要因とする一時的なコスト負担等により減収減益。

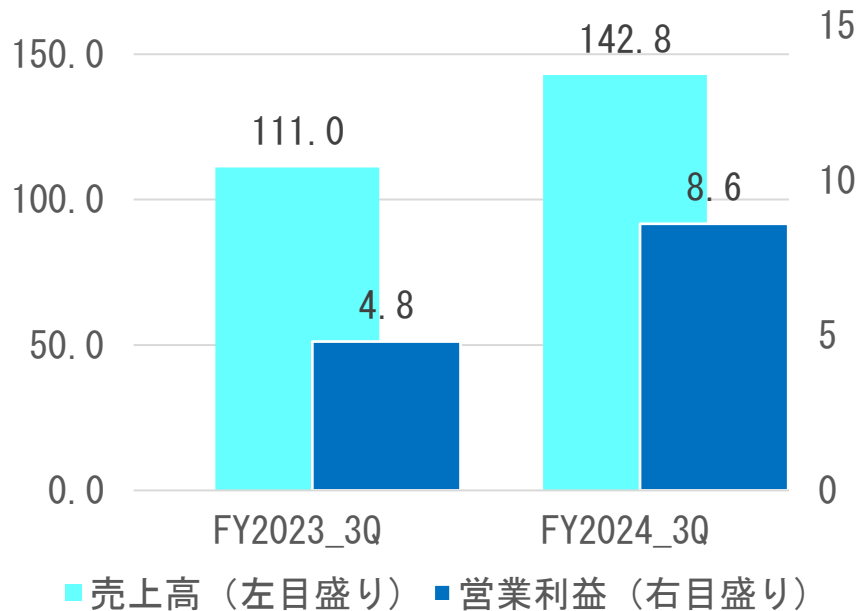
今後の取り組み

- 国内は自動化・省力化やDX推進、技術力を活かした新商品の市場投入により競争力を更に高め、収益基盤をより強化する。
- インドでは拡大する需要を確実に捕捉すべく生産能力増強を進める。
- 欧州・米州ではアライアンスパートナー企業と当社製造・販売拠点との連携深化により一層の事業収益拡大を目指す。

業績推移

単位：億円

	FY2023_3Q	FY2024_3Q	前年同期比	
売上高	111.0	142.8	+31.7	+28.6%
営業利益	4.8	8.6	+3.7	+78.4%



業績レビュー

- 大型工事案件の開始により、増収増益。

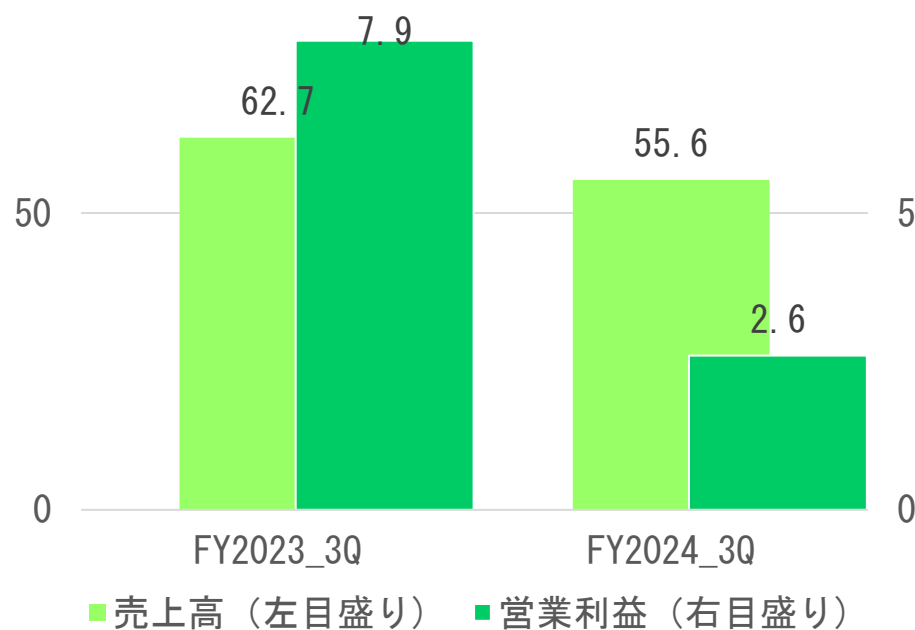
今後の取り組み

- 大型工事案件の確実な捕捉、製鉄設備整備作業の継続受注及び要員効率化等のコストダウンにより収益力向上を推進する。
- 省エネ工業炉の設計・施工に加え、バイオマスを含む発電用ボイラ及び焼却炉等、非鉄ユーザー向けのメンテナンス・新規案件の受注により収益を拡大する。

業績推移

単位：億円

	FY2023_3Q	FY2024_3Q	前年同期比	
売上高	62.7	55.6	▲7.1	▲11.4%
営業利益	7.9	2.6	▲5.2	▲66.3%



業績レビュー

- 半導体製造装置向けセラミックス材料と家庭用燃料電池向け断熱材が、受注の谷間となったことにより減収減益。

今後の取り組み

- 半導体業界団体の米SEMI*は12月に、半導体製造装置の売上高が2024年(実績見込み)の1,130億ドル(17兆円強)から2026年に過去最高の1,390億ドル(20兆円強)に達するとの予想を公表。当社は半導体露光装置向けを中心に拡大する需要を確実に捕捉する。
- 環境分野向け断熱材、電子部品向けセラミックス材、宇宙・医療等の新規分野向け製品等、各分野での拡販により収益を更に拡大する。

(*) SEMI : 国際半導体製造装置材料協会



<https://www.krosaki.co.jp/>

本資料は、金融商品取引法上の開示資料でなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、本資料に記載された将来の予測等は、資料作成の時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、不確定要素を含んでおります。従いまして、本資料のみに依拠して投資判断されますことはお控えくださいますようお願い致します。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。